

# 令和5年度 全国硬筆コンクール課題参考手本

大平恵理書

まだあげ初めし前髪の  
林檎のもとに見えしとき  
前にさしたる花櫛の  
花ある君と思ひけり  
やさしく白き手をのべて  
林檎をわれにあたへしほ  
薄紅の秋の実に  
人こひ初めしはじめなり

若菜集より

かく

\*署名は姓の大きさに合わせて、姓名または名前を  
作品に調和するように書きます。

高校・大学・一般

(課題文は「書文協ことば会議」選定・創作)

※林檎（りんご）、花櫛（はなぐ  
し）、薄紅（うすくれない）  
「小諸なる…」の五七調に対し、  
七五調のリズムに注目し暗唱し  
よう。

声に出して読みたい藤村詩集

この課題文は島崎藤村の詩集「若菜集」にある『初恋』の4節のうち2節である。浪漫主義的抒情詩人と呼ばれる藤村の主要テーマは恋愛。『初恋』は代表的作品として多くの人が暗唱する。「まだあげ初めし」「やさしく白き」に続く第3、4節は「わがこゝろなきためいきの その髪の毛にかゝるとき たのしき恋の盃を君が情に酌みしかな／林檎畠の樹の下に おのづからなる細道は 誰が踏みそめしかたみぞと 問ひたまふことこひしけれ」。

## 課題解説

第12回全国書写書道総合大会 主催 一般社団法人日本書字文化協会 共催 公益財団法人文字・活字文化推進機構 (楷書)